

(株)杜氏の郷問題での基本的視点提示

日本共産党議員団の議会報告会、質問続出



市の方針等について質問が相次いだ日本共産党議員団の議会報告会（13日）

日本共産党市議団の議会報告会を13日夜、吉川コミュニティプラザ3階大会議室で開催したところ、30人近くの方からご参加いただきました。ご協力ありがとうございました。

当日は市議会に提出された資料（中小企業診断士の報告が中心）などをスライドにし、文教経済常任委員会の上野公悦議員が株よしかわ杜氏の郷の長期借入金損失補償問題や同社の再生と今後の方向性について報告しました。また、この問題に日本共産党議員団はどう対応してい

くかについても説明しました。

上野議員の報告が先月31日の文教経済常任委員会です。市が示した中小企業診断士の「検証報告」と市の新たな方針を中心としたものであったこともあり、参加者の皆さんからの質問はこれらの点に集中しました。

「今度、増資という話が出てきたが、増資は市だけなのか。（会社の経営にかかわってきた）いろんな団体にどれくらいの比率で増資分を割り振るのか」「損失補償契約を結んだことについては町議会、町民にチャンスと説明してあったのか」「こうなりましたという説明だけではなく、増資に至るまでの経緯を説明してほしい。いくつもの選択肢があったはずだし、それぞれのメリット、デメリットがあつて、こうなつたと説明を」などの質問に対しては、市議会などで知り得た情報をもとに答えさせていただきました。どこがどれだけ増資するのか、新たな経営改善計画の方向等の最終的なものは次回（18日開催予定）の文教経済常任委員会で明らかにされる見込みです。

知らないうちに決まったでは困る

質問だけではなく、いろいろな意見や提案も出しました。「業界全体として取り組みを考えてもいい。もっと連携をさぐるべきだ」「これまでの会社は住民から離れていた。住民自らがかわる経営体制にしないと、最後はまた、税金投入となる」など、厳しい意見や積極的な提案がいくつもありません。

私たち議員団は、(株)よしかわ杜氏の郷を何とか存続させていきたいと思っておりますが、その

ためには必要なことがいくつもあります。報告会で私たちは「私たちの考える基本的な視点」として、経営計画が現実的かどうか、自治基本条例に基づいて市民への十分な説明がなされ、意思確認がされるかどうか、などを提示しました。これらは今後、市議会に提出されるであろう議案への賛否を決めるうえでも重要なモノサシとなるものです。参加者からは、「知らないうちに決まったんでは困る。（市は）本当に意見（住民の意思確認）を聞いてくれるらうね」という声がありました。今後の市の対応に注目していきたいと思えます。

私たちの考える基本的な視点

- 市、JA、会社役員の役割と責任がはっきりしているかどうか
- 経営改善計画が現実的かどうか
- 経営計画を着実に実行できる新体制が確立できるかどうか
- 自治基本条例に基づいて市民への十分な説明がなされ、意思確認がされるかどうか

「無保険」の子どもも解消を

保護者が保険税を滞納していることを理由に国保保険証が使えない子どもが上越市にも25人います。

党市議団では13日、「子どもの権利条例」に照らしでもすぐ交付すべきだと市に申し入れました。土橋市民生活部長は早急に検討すると約束しました。

